

《夢の浮橋》 2025年
志村ふくみ監修 制作 都機工房
絹糸／紅花、茜、紫根、藍、刈安
通期展示

特別展

志村ふくみ 百一寿

— 夢の浮橋 —

2026年 3月3日|火|～5月31日|日|

[前期] 3月3日|火|～4月12日|日| [後期] 4月14日|火|～5月31日|日|

細見美術館

101歳を迎えた人間国宝、志村ふくみ氏 — 70年にわたる表現の軌跡をたどる

開催趣旨

2001年、2013年に続き、第3弾となる志村ふくみ展を開催する。志村ふくみは、紬織の重要無形文化財保持者(人間国宝)であり、随筆家としても知られる染織作家。2025年秋に101歳を迎えた現在も、美しいものを手に取りながら穏やかな日々を過ごし、自然や色彩への深いまなざしを持ち続けている。

本展では、『源氏物語』や「紫」、そして作家、石牟礼道子原作の新作能『沖宮』の能装束など近年の特徴的なテーマを中心に、作品と紡がれた言葉とによって70年にわたる表現の軌跡をたどり、色彩、生命、自然への尽きることのない思索と未来へ語り継ぐ言葉を紹介する。本展を機に構想・制作された作品2領の初公開となる。



作家プロフィール

志村ふくみ氏

Shimura Fukumi

滋賀県生まれ。染織家、随筆家。

31歳のとき母・小野豊の指導で植物染料と紬糸による織物を始める。

重要無形文化財保持者(人間国宝)、文化功労者、第30回京都賞(思想・芸術部門)受賞、文化勲章受章。京都市名誉市民。著書に『一色一生』(大佛次郎賞)、『語りかける花』(日本エッセイスト・クラブ賞)、『ちよう、はたり』など多数。作品集に『織と文』、『篝火』、『つむぎおり』など。

本展のみどころ

源氏物語から生まれた色と着物

染織家・志村ふくみは、70代半ばから源氏物語をテーマにした連作を手がけてきた。作品のタイトルは各帖からとられ、物語から感じる香りや響き、言葉では言い表せない情感を、美しい色と織りで表現している。滋賀県立美術館の所蔵作品を含む代表作12点に加え、本展のために制作された新作《朧月夜》と《夢の浮橋》を初公開。

新作能『沖宮』の世界

作家・石牟礼道子が遺した新作能「沖宮」で使われる装束6領全てを展示する。「沖宮」は、島原の乱の後の天草が舞台。干ばつに苦しむ村のため龍神への人柱になる少女あやを、戦に散った天草四郎がいのちのみなもと「沖宮」に導く死と再生の物語である。緋色を追求し、紅花で染めた主人公あやの舞衣《紅扇》と、天草四郎の小袖《Francesco》は関西初公開。

小さな布が織りなす「裂(きれ)」の宇宙

志村ふくみは、長年織ってきた着物の残り布や小さな端切れを愛おしく思い、大切に保管してきた。80代に入り、これらの布を使った新たなコラージュ作品を生み出していく。高村光太郎の詩に感動して筆をとり、小裂で飾った作品《五月のウナ電》や着物の雛形、裂帖などを展示し、その豊かな創造の世界を紹介する。

第1章 源氏物語の世界



《朧月夜》 2025年
志村ふくみ監修 制作 都機工房
絹糸・金糸／紫根、藍、刈安、臭木
通期展示



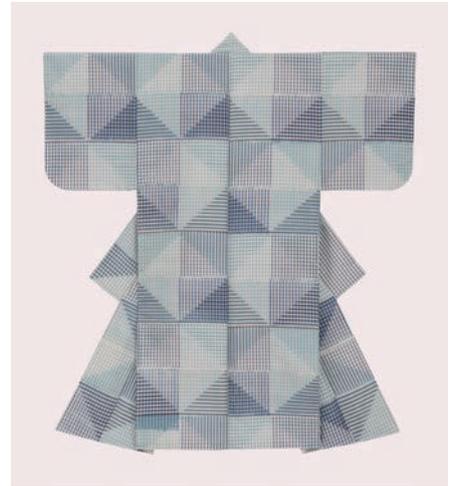
《夢の浮橋》 2025年
志村ふくみ監修 制作 都機工房
絹糸／紅花、茜、紫根、藍、刈安
通期展示

第2章 沖宮の世界

おきのみや



舞衣《紅扇》 2021年
志村ふくみ監修 制作 都機工房
絹糸／紅花、藍、刈安、臭木、紫根
前期展示



小袖《Francesco》 2020年
志村ふくみ監修 制作 都機工房
絹糸／臭木、藍
前期展示

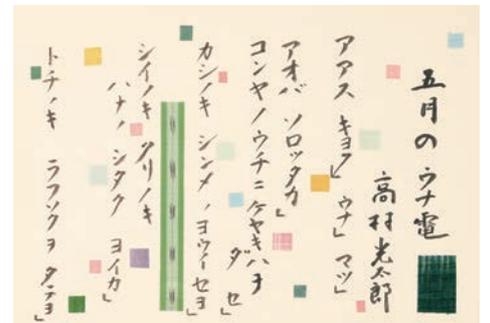
第3章 志村ふくみの世界



《風露》 2000年
絹糸／紅花、藍、刈安、紫根
後期展示



《雛形 若菜》 2006年 絹糸
前期展示



《五月のウナ電》 詩：高村光太郎 書・裂：志村ふくみ
後期展示

※作者名の表記がない作品は、すべて志村ふくみによるものです。

第51回アートキューブレクチャー

「うつろいゆく紫の物語」

事前申込制

開催日時 2026年5月10日(日) 午後2時～3時30分 (開場 午後1時30分～)
 会場 京都市勧業館みやこめッセ 大会議室
 定員 100名 ※申込先着順。定員になり次第、受付を終了いたします。
 参加費 2,300円 ※展覧会チケット付き。当日受付にてお支払いください。

【友の会「古今」会員】 フレンドシップメンバー 500円
 サポートメンバー 500円 フェローシップメンバー 無料



Shimura Yoko

講師 志村洋子氏

東京都生まれ。染織家、随筆家
 「藍建て」に強く心を引かれ、30代から母・志村ふくみと同じ染織の世界に入る。
 1990年に、宗教、芸術、教育など文化の全体像を織物を通して総合的に学ぶ場として「都機工房（つきこうぼう）」を創設。
 著書に『色という奇跡』、ふくみとの共著『たまゆらの道』。作品集に『しむらのいろ』『オペラ』『鏡 志村洋子染と織の心象』がある。
 2013年に芸術学校アルスシムラをふくみ、息子・昌司とともに開校。

申込方法 フォームに必要事項を入力の上、送信してください ▶▶▶

- お申込みは、お一人ずつお願いいたします。■お申込み後、5日程度でメールにて申込完了のお知らせをお送りいたします。届かない場合は、お電話にてお問い合わせください。
- [hosomi.event@gmail.com]からのメールを受信できるように設定をお願いいたします。



申込フォーム

開催概要

展覧会名 **特別展「志村ふくみ 百一寿 一夢の浮橋」** 巡回予定はありません

会期 2026年3月3日(火)～5月31日(日)
 [前期] 3月3日(火)～4月12日(日) [後期] 4月14日(火)～5月31日(日)

開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)

入館料 一般 2,000円(1,800円) 学生 1,500円 前売ペアチケット 3,400円

販売窓口: 細見美術館(当日券のみ)、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、CNプレイガイド
 ※()内は前売料金。 ※前売券は2月3日(火)から3月2日(月)までプレイガイドで販売。
 ※前売ペアチケットはローソンチケット、イープラスのみで販売。

主催 細見美術館、京都新聞

後援 京都市内博物館施設連絡協議会

協力 都機工房、アトリエシムラ

監修 志村ふくみ、志村洋子

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

*会期・営業日時等を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトをご覧ください。

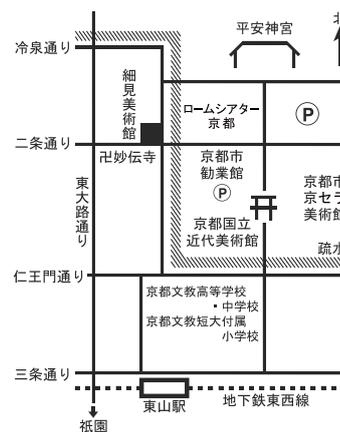
【細見美術館 WEB サイト】 <http://www.emuseum.or.jp>

【細見美術館公式 SNS】 X @HosomiMuseum

Instagram @hosomi.museum



細見美術館
WEBサイト



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
 - 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
 - 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
- ご来館には公共交通機関をご利用ください。

きもの割

会期中、きもの姿でご来館いただくと200円引きでご観覧いただけます

※和装の方が対象です。 ※他の優待との併用はできません。 ※ご本人様のみ対象となります。



画像クレジット

- | | | | | | | |
|----|---------------|-------|----------|------------|------------------|--------|
| 1 | 《朧月夜》 | 2025年 | 志村ふくみ監修 | 制作 都機工房 | 絹糸・金糸／紫根、藍、刈安、臭木 | 【通期展示】 |
| 2 | 《夢の浮橋》 | 2025年 | 志村ふくみ監修 | 制作 都機工房 | 絹糸／紅花、茜、紫根、藍、刈安 | 【通期展示】 |
| 3 | 《若紫》 | 2007年 | | | 絹糸／紫根、茜 | 【前期展示】 |
| 4 | 舞衣《紅扇》 | 2021年 | 志村ふくみ監修 | 制作 都機工房 | 絹糸／紅花、藍、刈安、臭木、紫根 | 【前期展示】 |
| 5 | 小袖《Francesco》 | 2020年 | 志村ふくみ監修 | 制作 都機工房 | 絹糸／臭木、藍 | 【前期展示】 |
| 6 | 《月の湖》 | 1985年 | | | 絹糸／藍、玉葱 | 【前期展示】 |
| 7 | 《風露》 | 2000年 | | | 絹糸／紅花、藍、刈安、紫根 | 【後期展示】 |
| 8 | 《五月のウナ電》 | | 詩: 高村光太郎 | 書・裂: 志村ふくみ | | 【後期展示】 |
| 9 | 《雛形 紫格子白段》 | 2006年 | | | 絹糸 | 【前期展示】 |
| 10 | 《雛形 若菜》 | 2006年 | | | 絹糸 | 【前期展示】 |
| 11 | 《雛形 螢 生絹》 | 2006年 | | | 絹糸 | 【後期展示】 |

※作者名の表記がない作品は、すべて志村ふくみによるものです。

〈広報用画像 使用に際して〉

- ・本展の広報目的での使用に限ります。使用可能期間は本展の会期終了までとなります。会期中であっても再放送や転載される場合は広報室までお知らせください。
- ・画像の二次使用はできません。
- ・画像をご掲載の際には、展覧会名・会期・会場・画像クレジットを必ず記載してください。
- ・概要確認のため、原稿、テストサイトの段階で広報室までお送りいただきますようお願いいたします。
- ・画像をトリミング、文字乗せ等の加工をする場合は予め掲載イメージ・原稿を広報室までお送りください。
- ・高解像度のデータをご希望される場合は、広報室までご相談ください。
- ・掲載・放送後は必ず、掲載紙・誌、URL、番組収録のDVDなどを広報室にご提供ください。

報道に関するお問い合わせ

細見美術館 広報担当 大塚
kouhou@emuseum.or.jp
TEL: 075-752-5555(代)
FAX: 075-752-5955(代)

展覧会資料(画像)をご希望の方は、
ホームページ内リリースページもしくは
右記 QR コード「資料・ご取材申込フォーム」
からお申込みください。



資料・ご取材申込フォーム